

第3部 総合討論（16:50～17:50）

大学における原子力安全研究と教育

- (1) 専攻教員からのショートな話題提供（20分）**
- (2) フロアの学生・院生から（10分）**
- (3) フロア参加者からのご意見（25分）**
- (4) 簡単なまとめ（5分）**

まとめ①

教員の想い・モットー

(順不同、重複内容記載がありますが複数意見です)

原子力は広義に言えば全ての研究・教育が安全とリンクする。

基礎学力はすべてに重要。原子力安全に限らぬ。

安全性の教育には、技術だけでなく倫理観を植付ける。

数式だけでなく観念・理屈を教育。安全はベースだが環境、経済等多面的なもの。

健全な知識を養い、自分で考え、意見を述べさせる。自由な発想を尊重したい。

何か抛り処を持たせたい。軽水炉の仕組みや熱流動の切り口も有力なひとつ。

適度な分量を繰返し教えることが効果がある。過度の専門知識はまだ不要。

安全のセンスとして、リスクは必ず残るという謙虚さを強調したい。

安全を実現するハードとソフトのありかたも重要。

安全性の教育は技術だけで済まない。社会とのかかわりを認識させる。

自分の意見を述べる力量・覚悟・責任感を醸成したい。

まとめ②

学生・大学院生から

順不同

卒業論文を通して専門性を深めていきたい。一口に安全と言っても幅広い。広分野カリキュラムも有難いが、前倒しに専門知識が欲しいこともある。

学部・大学院を通して、軽水炉のハード・ソフトの情報が講義の随所に含まれているのは参考になっている。

多くの先輩(OG、OB)の意見を聞いてカリキュラムを組んでみたらどうか。

安全、とくに深層防護など観念的なものを具体的に体感したい。現場の見学でこうしたハードに触れてみたい。

夏のインターンシップで複数の産業界(原子力と非原子力)と接触したが、産業界が望む安全は2点で一致した。それは正しい倫理感と幅広い知識を持つことに集約されると感じた。

福島事故は残念だが、学ぶ側からは実例が示され理解が進んだ。学生の時代から正しい倫理感と幅広い知識を持つことは心がけていきたい。

まとめ③

参加者からのご意見

順不同

完全な安全はない。危ないことは危ないと自信を持って言えるように学んで、産業界で活躍いただきたい。

自信を持って安全性を論じて欲しいが、基礎学力で論理を詰めて。

原子力は総合工学ですべてを束ねて結論を出す。例えば機械もその一翼だが、古典的な4力学まで十分に手が回らぬとしてもポイントを抜かないバランスが大切。

安全性は暗くなりがちになるが、夢のあるインセンティブを与えた指導も要望したい。

大学教育を超えて、リスクマネジメントに関しては自信をもって取り組んでもらいたい。

このほか、倫理観は組織毎の綱領があることや、福島事故の津波対策に関する質問も出され、フロアからの意見交換は30分続きました。